

日本口蓋裂学会

音声言語分野

認定師 重点症例研修記録用紙

2019年度審査用

申請者氏名：

所 属：

重点症例

番号	区分	年齢	診断名	言語療法の区分（下記参照）
1	1	6	両側性口唇口蓋裂	1 鼻咽腔閉鎖機能の評価

言語療法の区分：1) 鼻咽腔閉鎖機能 2) 構音機能 3) その他の言語障害

会員番号：

申請者氏名：

所属名：

重点症例研修記録用紙 1-a

・区分 1

・年齢 6 性別 女 教育環境：小学校1年生 普通クラス

・経験施設名： ○○病院

・診断名（医学的診断名、裂型） 両側性口唇口蓋裂

・口蓋形成術 pushback法 1歳6か月時

・一次症例

・言語障害名：口唇口蓋裂に伴う鼻咽腔閉鎖機能不全による言語障害

・言語評価（評価方法とその結果）

1) 鼻咽腔閉鎖機能

(1) 口腔内視診

硬口蓋：口蓋瘻孔（あり 円形（2ミリ程度）） 軟口蓋の長さ：短小

軟口蓋の動き：不良

歯・咬合：狭窄歯列（あり）、反対咬合、齲蝕（加療中）

その他：パッサーバン隆起（あり）、扁桃肥大（あり）

(2) 聴覚判定

共鳴：開鼻声（重度） 閉鼻声（なし）

呼気鼻漏出による子音の歪み：（重度にあり：[s]に著明）

声：嗄声（軽度）にあり）

(3) ブローイング検査

鼻息鏡の呼気鼻漏出の程度：++（有：blowing：3×3，s：2×3，i：3×3）

呼気鼻漏出の程度の基準 -：なし、±：2cm未満、++：2cm以上

(4) ナゾメータ検査

全ての課題で不全

[i]平均：75%、[u]平均：85% パ行音：平均65% 最大値 96%、[tsu]：平均73% 最大値 85%

高圧文「キツツキ きを つつく」平均77% 最大値91%

低圧文「よういは おおい」 平均60% 最大値 96%

(5) 側方頭部X線規格写真所見

安静時： 軟口蓋長/咽頭の深さの比 0.77（軟口蓋の長さが短い）：図1

[i]発声時： 咽頭一口蓋間距離：4mm：図2

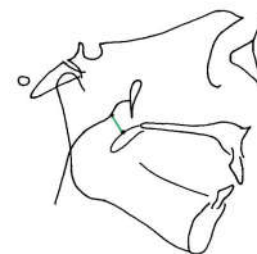
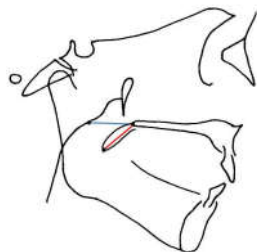


図1 安静時の軟口蓋長（赤線）/咽頭の深さ（青線）

図2 [i]発声時の咽頭一口蓋間距離（緑線）

(6) 鼻咽腔ファイバースコープ所見 (図3：安静時、図4：[s]構音時 図5：[i]発声時)
[s], [i]共に安静時と空隙の大きさは変化なく軟口蓋と咽頭側壁の動きが見られず、
閉鎖状況は不全

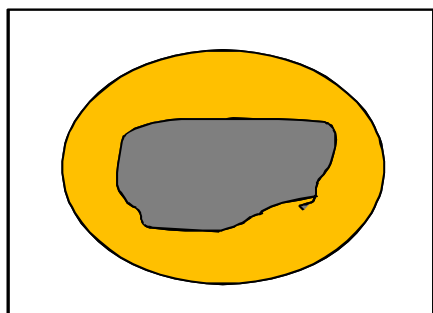


図3：安静時

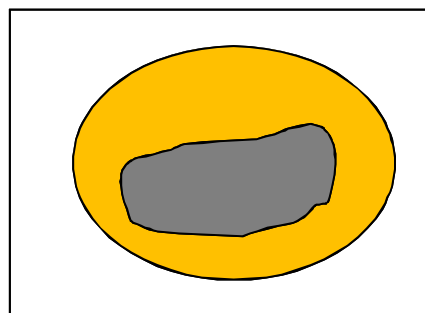


図4： [s]構音時

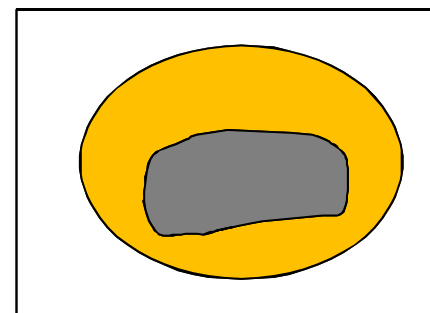


図5： [i]発声時

(7) 鼻咽腔閉鎖機能の総合的判定：不全

2. 構音検査

声門破裂音などの異常構音はみられないが、開鼻声と呼気鼻漏出による子音の歪みが著明で、ことばの明瞭度を下げている。

会話明瞭度3：「聞き手が話題を知っていればわかる」

3. その他

発達面は年齢相応(田中ビネーV検査 IQ105)である。しかし、明瞭度が低いことから、周りから聞き返しがあり、自ら積極的に友達に話しかけることが少ない。コミュニケーション意欲の低下が認められ言語面のみではなく、心理社会面の問題も有する。

・問題点

- #1 鼻咽腔閉鎖機能不全
- #2 ことばの明瞭度低下
- #3 コミュニケーション意欲の低下
- #4 登校しぶり
- #5 口蓋瘻孔

・言語療法の方針（評価結果と対応すること）

1) 齶蝕の治療終了後、鼻咽腔閉鎖機能不全に対し、口腔外科と協議しながらspeech aidの作成を行い、鼻咽腔の閉鎖感覚を経験しながら、口腔内圧を高める言語療法を行う。また、瘻孔に関しては、speech aidの口蓋床で塞ぎ、顎裂部の骨移植術の際、閉鎖術を依頼する。

2) 1) の経過を観察しながら、speech aidのバルブの調整を行いながら、鼻咽腔閉鎖機能の賦活を行う。

3) speech aidの抜去が難しい場合、口腔外科と協議し、口蓋二次手術（re-pushbackもしくは咽頭弁形成術）の適応について検討する。

・言語療法の内容

1) speech aidを作成後、高い口腔内圧を必要とするパ行音、サ行音から構音訓練を開始する。

2) 視覚的feedbackとして、本児の協力が得られれば、ナゾメータを用いた練習を行い、パ行、サ行の高圧子音から、母音、半母音の低圧音を鼻に抜かない練習を行う。

3) speech aidの調整を行いながら、鼻咽腔閉鎖機能の賦活を促す。

・他領域との連携体制：

- 1) 鼻咽腔閉鎖機能の評価：口腔外科と行う。
- 2) speech aid:口腔外科と同席して、調整を行う。
- 3) 鼻咽腔閉鎖機能に関する治療方針立案：口腔外科と協議する。
- 4) 嗄声：耳鼻科への受診を依頼し、必要があれば、声の衛生指導を行う。
- 5) 心理面：ことばの経過をみながら、必要があれば、臨床心理士へ繋げる。
- 6) 必要に応じて、小児歯科に口腔内ケアを依頼する
- 7) 矯正に関しては、鼻咽腔閉鎖機能の経過をみながら、協議検討する。

・その他 特記事項：

学校への申し送り：ことばの問題からの「からかい」などが懸念されるので、担任へことばの状態を報告し、環境整備を依頼する。